

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3690300011		
法人名	社会福祉法人 小松島敬和会		
事業所名	グループホーム ひかり		
所在地	徳島県小松島市坂野町椋のべ35番地		
自己評価作成日	令和1年12月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成31年2月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

隣接する特養やサービスと連絡をとり、イベントや行事に参加させて頂き利用者様が充実した苑生活が送れる様に努力している。地域の運動会や文化祭にも参加させて頂き、地域との関係が途絶えない様に努力している。法人内のケアマネージャーと情報交換を行ったり、オレンジカフェを開催して、地域の方達の相談窓口になれる様に努力している。ご近所やご家族の方との関係が途絶えない様に、遠慮なく面会に訪れる事が出来る様に柔軟に対応している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、幹線道路から少し奥へ入った、田園風景の広がるなかに位置し、敷地内には、同一法人の運営する事業所が併設している。事業所理念にもとづき、職員が一丸となって利用者一人ひとりに合わせた支援や地域との関係継続支援に努めている。法人内で連携し、季節のイベント行事や防災訓練、職員研修会等を実施している。運営推進会議は、市内の他事業所の職員の出席を得ており、管理者や市担当者、地域住民等の出席を得て、相談ごとや困難事例検討を行ったり、意見交換を行ったりして、横の繋がりを築く場ともなっている。また、協力医療機関との連携を密に図り、毎日の往診や夜間急変時の対応体制、訪問看護との連絡体制等を構築し、利用者や家族の医療面での安心に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に職員全員で理念を復唱している。理念に沿った支援が出来る様に努力し実行出来る様に努力している。	事業所は、地域密着型サービスの役割を踏まえた理念を作成している。理念は、事業所の玄関等に掲示している。毎朝の申し送り時に、全職員で唱和したり、管理者が新人職員に理念について伝えたりして、意識共有に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の運動会や文化祭に参加し、地域とのつながりが途絶えない様に努力している。ご近所の方やご家族が遠慮なく面会に訪れる事が出来る様に柔軟に対応している。	事業所では、地域の運動会や老人会、婦人会の行事に参加して交流を図っている。同一法人の運営する併設の他サービス事業所は、利用者の知人が多く利用しているため、イベント等に利用者と一緒に参加して交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月に一度オレンジカフェを開催し、地域の方やご家族が認知症への理解や相談に応じている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各グループホームの管理者や地域包括の職員や民生委員の方にも参加して頂き、情報交換や意見を頂き、サービス向上につながる様に努力している。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議には市内の他事業所の職員も出席し、事業所の報告や困難事例の検討等を協同で行い、情報共有している。会議で得た意見は、サービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者にも運営推進会議にも参加して頂き、情報を伝えたり、問題解決への相談やアドバイスを頂いている。	職員は、毎月、市の担当窓口に出向き、報告書を提出し、顔の見える関係づくりをしている。出向いた際に、相談ごとをしたり、研修会の案内などの情報を得たりして、協力を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は、玄関の施錠をせず、自由に行き来出来る様に努力している。戸外へ出ていきたい時は、職員が付き添う様にしている。身体拘束委員会を設置し、事例検討会なども行っている。	事業所では、毎月、全職員が参加する身体拘束廃止委員会を開催し、事例検討や現場目線での正しい理解と共有を図っている。防犯のため午後7時から午前6時の夜間帯は、玄関の施錠を行っているが、日中は行き来が自由に行けるよう開錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連の研修を行い、事業所内での虐待が見過ごされない様に努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や勉強会、講演会に参加し、色々学び、必要とされる利用者や家族の相談に応じ、制度が活用できる様に支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時、改定時、又は、面会時に利用者や家族の不安や疑問に説明し、理解し納得して頂ける様に務めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者は、日常生活の中で、家族は面会時などの会話の中で聞き取り、意見や要望を伝える事が出来る様に務めている。	職員は、利用者との日頃の関わりのなかで、意見や要望を聞きとっている。家族の来訪時に気軽に意見を出してもらえよう、相談しやすい雰囲気づくりに努めている。玄関には、意見箱を設置したりして、運営に関する意見や要望の把握に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、朝夕の申し送り時や月に1回～2回カンファレンスを行い、職員の意見や提案を聞く機会を設け、働く意欲の向上に努めている。	事業所では、毎日の申し送り時や月1回のフロア会議等で、職員の意見や意向を聞きとっている。職員の提案で、行事開催時には、日勤者を多く配置するシフト調整を行うなど、円滑な運営に向けて意見を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、職員一人一人がやりがいや向上心を持って働ける様に職場の環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の研修を受ける機会や働きながら技術や知識を身につけていくことに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議や勉強会に参加し、管理者や職員が他のグループホームと交流し、情報交換や勉強会の活動を通じてサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入段階で本人の気持ちを受け止め、困っていることや不安なことに耳を傾けながら、本人の安心の確保に努めている。担当職員を設けより信頼関係が保てるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入段階で家族の立場になって、困っていること、不安なことに耳を傾け信頼関係が保てるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入段階で、本人や家族の相談に応じ、何が必要かを見極め、事業所として出来る限りの対応が出来る様に務めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の要望や不安に耳を傾け、信頼関係を保てる様に務めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の相談や不安に耳を傾け、本人と家族の関係がより良い関係が保つことができ様に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の運動会や文化祭に参加したり、ご近所方が面会に来て頂いたりし、これまでの関係が途切れない様に支援している。	事業所は、家族の協力を得て、馴染みの美容室に行ったり、墓参りに出かけたりしている。地域の運動会や老人会、婦人会の行事にも積極的に参加している。また、手紙のやりとりの支援するなど、馴染みの関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、利用者同士の関係を把握し、利用者が孤立せずに、共に暮らしを楽しめる様に支援し支え合える様に務めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も、利用者や家族とのこれまでの関係性を大切に、その後の相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族の思いや意向に耳を傾け、職員は情報交換を行い、本人や家族の思いや意向に沿うように支援している。	職員は、利用者との日頃の関わりのなかから、思いや意向の把握に努めている。意思の表出が困難な利用者については、家族から利用者の性格や生活歴等を聞きとり、一人ひとりの状態に合わせた支援に努めている。把握した意向は職員間や家族とも共有し、支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族から生活歴や馴染みのある暮らし方を聞き取り、情報収集に努めている。又、苑生活の中で、本人の希望や要望に耳を傾け、自分らしく苑生活を過ごして頂く様に務めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	苑生活の中で、情報交換を行い、利用者の過ごし方、心身の状態を把握し、有する力等の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の希望や要望を聞き取り、必要な関係者と話し合い、家族や利用者本人の希望や要望に反映した介護計画を作成する様に努めている。	事業所では、利用者や家族の意見や希望を反映した介護計画を作成している。定期的な見直しのほか、利用者の心身状態に即した介護計画となるよう柔軟に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者や家族の希望や要望を聞き取り、必要な関係者と話し合い、家族や利用者本人の希望や要望に反映した介護計画を作成する様に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の状況に合わせて、法人内の管理者やケアマネを交え、情報交換を行い、利用者や家族のニーズに対応できる様に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、地域包括支援センターや民生委員と情報交換を行い、安全で豊かな暮らしが楽しめる様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関に往診して頂いている。家族や利用者の希望のかかりつけ医や専門医への受診への支援を行っている。	事業所では、利用者や家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。協力医療機関の医師による往診や特別回診も毎日実施し、医療面の安心につなげている。他科受診の際には、家族と協力し、車いすの送迎等も支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時には、職員が得た情報や気づきに看護職や訪問看護師に伝え、利用者が適切な受診や看護を受けられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際に、利用者が安心して入院生活ができる様に、医療機関に情報交換を行い早期に退院できる様に務めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の説明会で重篤化した場合や終末期について説明し、医療機関や関係者と情報交換を行い、利用者や家族の希望や要望に沿える様に取り組んでいる。	事業所では、入居時の段階で、重度化や終末期における事業所の対応について説明を行っている。同一法人の運営する併設の他サービス事業所と連携し、利用者や家族、医療関係者、職員のチームで情報共有しつつ、利用者が住み慣れた地域で暮らし続けられるように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、急変時や事故発生時に、応急処置や初期対応が出来る様に、研修や勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回事業所内での避難訓練を行っている。又同一法人との合同避難訓練にも参加している。避難訓練を行う際にはご家族や地域の方にも協力をお願いしている。	事業所では、年2回避難訓練を行っている。また、年1回、法人内で合同の防災訓練も実施している。食料品や備品等を事業所のみならず法人全体で備蓄している。地域住民に避難訓練への参加を呼びかけるなど、協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			1階	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの保護などの研修や勉強会を実施し、利用者の人格を尊重し、否定的な言葉かけをしない様に務めている。	職員は、利用者の気持ちを大切に考えて、声かけや支援を実践している。年1回、個人情報やプライバシー保護に関する法人内の合同研修会を開催している。職員一人ひとりの意識向上を目指し、利用者の自尊心に配慮した支援に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	苑生活の中で、利用者の思いや希望を聞き取り、利用者の思いや希望に沿った支援が出来る様に務めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者自身のペースに合わせた苑生活が出来様に、希望や要望に沿って支援していく様に務めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みにあった身だしなみやおしゃれができる様に、家族に馴染みの化粧品を家族に購入して頂いたり、好みの洋服を持って来て頂いたりしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	苑生活の中で、利用者の好みのおかずを聞き取ったり、調理方法を教わったり、お野菜の皮むきなどを手伝って頂いたりしている。	事業所では、台ふきや配膳、下膳等、利用者一人ひとりの状態に合わせた役割を担ってもらっている。近隣住民や家族から、季節の野菜の差し入れがあると、献立に一品加えている。みんなが参加できるホットプレートを使用した「おやつレク」を開催して、食事を楽しむことができるように工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事の摂取量をチェックし、利用者の健康状態を把握している。利用者の嚥下や咀嚼の状態に合わせて、食事形態を変更している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。夜間は、義歯を洗浄し清潔を保っている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、トイレの声かけや介助を行っている。日中は、パットの使用回数を減らすために、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	職員は、排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。布パンツ等を使用しつつ、トイレでの排泄の自立に向けて、トイレ誘導を行うなどの支援を行っている。夜間帯は、一部ポータブルトイレを使用しつつ、誘導を行い、安眠に配慮した支援に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を活用し、排便のリズムを把握している。便秘にならない様に、牛乳の飲用や乳製品をおやつに使用したりしている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の清潔保持の為に、出来るだけ毎日入浴して頂く様に務めている。利用者が入浴を嫌がる時は、無理強いしない様に務めている。	事業所では、利用者一人ひとりの希望や体調に合わせた入浴支援を行っている。入浴を拒む利用者には、声かけする職員やタイミングを変えるなどの工夫をして、無理強いすることなく支援している。また、ゆず湯や菖蒲湯を用いて、楽しみつつ入浴できるよう工夫している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	苑生活の中で、自由に休息や睡眠が出来る様に支援している。夜間、眠れない利用者には、傾聴し、安心して眠れる様に支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬説明表を活用し、利用者の服用している薬の目的や副作用、用法、用量を把握している。服薬の管理は、職員がしており、誤薬しない様に務めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴を聞き取り、これまで培った力を活かした役割や喜びのある苑生活が過ごせるように努めている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に沿って戸外へ出ていけるように支援している。家族の協力を得てお墓参りや、外泊ができる様に支援している。	事業所は、利用者の希望に応じて敷地内の散歩や近隣の花見等を支援している。また、行事計画を立てて、季節に応じた遠出も支援している。さらに、家族の協力を得て、外食や実家、墓参りにも出かけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族、利用者本人の責任のもと、お金を所持し使える様に支援している。自分で管理できない利用者は、必要な物を職員が家族に連絡し、購入してきて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望により、電話をしたり、手紙のやり取りができる様に支援している。家族からの電話にも柔軟に対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員は、利用者が居心地よく過ごせる様に、利用者の座席の配置を考えて、不快や混乱をまねく事がないように工夫している。季節にあった壁面を利用者と一緒で作成し、季節感を味わって頂く様に務めている。	共有空間は、清掃が行き届き、清潔を保っている。大きな窓からは暖かい日差しが差し込み、大きなソファを設置して、ゆったりと過ごすことのできる空間づくりに配慮している。また、壁面には季節感のある利用者の作品を掲示し、利用者同士の会話のきっかけにもなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士テーブルを囲んだり、ご家族や知人の面会があった時には、和室などを利用して頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室は、利用者本人の使い慣れたタンスやご家族の写真を飾って頂き、利用者にとって居心地よく過ごす事ができる様に工夫して頂いている。	居室には、利用者の使い慣れた家具や家族の写真、趣味のもの、仏壇等、自由に持ち込んでもらっている。利用者一人ひとりに合わせて使いやすいように配置し、居室で居心地よく過ごすことができるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、バリアフリーで対応している。手すりなどを使用し、自立した生活ができる様に支援している。居室が理解できない利用者の居室には、家族の了解を得て、ネームなどを貼って居室が理解できる様に務めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に職員全員で理念を復唱している。理念に沿った支援が出来る様に努力し実行出来る様に努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の運動会や文化祭に参加し、地域とのつながりが途絶えない様に努力している。ご近所の方やご家族が遠慮なく面会に訪れる事が出来る様に柔軟に対応している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月に一度オレンジカフェを開催し、地域の方やご家族が認知症への理解や相談に応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各グループホームの管理者や地域包括の職員や民生委員の方にも参加して頂き、情報交換や意見を頂き、サービス向上につながる様に努力している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者にも運営推進会議にも参加して頂き、情報を伝えたり、問題解決への相談やアドバイスを頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は、玄関の施錠をせず、自由に行き来出来る様に努力している。戸外へ出ていきたい時は、職員が付き添う様にしている。身体拘束委員会を設置し、事例検討会なども行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連の研修を行い、事業所内での虐待が見過ごされない様に努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や勉強会、講演会に参加し、色々学び、必要とされる利用者や家族の相談に応じ、制度が活用できる様に支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時、改定時、又は、面会時に利用者や家族の不安や疑問に説明し、理解し納得して頂ける様に務めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者は、日常生活の中で、家族は面会時などの会話の中で聞き取り、意見や要望を伝える事が出来る様に務めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、朝夕の申し送り時や月に1回～2回カンファレンスを行い、職員の意見や提案を聞く機会を設け、働く意欲の向上に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、職員一人一人がやりがいや向上心を持って働ける様に職場の環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の研修を受ける機会や働きながら技術や知識を身につけていくことに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議や勉強会に参加し、管理者や職員が他のグループホームと交流し、情報交換や勉強会の活動を通じてサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入段階で本人の気持ちを受け止め、困っていることや不安なことに耳を傾けながら、本人の安心の確保に努めている。担当職員を設けより信頼関係が保てるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入段階で家族の立場になって、困っていること、不安なことに耳を傾け信頼関係が保てるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入段階で、本人や家族の相談に応じ、何が必要かを見極め、事業所として出来る限りの対応が出来る様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の要望や不安に耳を傾け、信頼関係を保てる様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の相談や不安に耳を傾け、本人と家族の関係がより良い関係が保つことができる様に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の運動会や文化祭に参加したり、ご近所方が面会に来て頂いたりし、これまでの関係が途切れない様に支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、利用者同士の関係を把握し、利用者が孤立せずに、共に暮らしを楽しめる様に支援し支え合える様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も、利用者や家族とのこれまでの関係性を大切に、その後の相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族の思いや意向に耳を傾け、職員は情報交換を行い、本人や家族の思いや意向に沿うように支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族から生活歴や馴染みのある暮らし方を聞き取り、情報収集に努めている。又、苑生活の中で、本人の希望や要望に耳を傾け、自分らしく苑生活を過ごして頂く様に務めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	苑生活の中で、情報交換を行い、利用者の過ごし方、心身の状態を把握し、有する力等の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の希望や要望を聞き取り、必要な関係者と話し合い、家族や利用者本人の希望や要望に反映した介護計画を作成する様に務めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者や家族の希望や要望を聞き取り、必要な関係者と話し合い、家族や利用者本人の希望や要望に反映した介護計画を作成する様に務めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の状況に合わせて、法人内の管理者やケアマネを交え、情報交換を行い、利用者や家族のニーズに対応できる様に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、地域包括支援センターや民生委員と情報交換を行い、安全で豊かな暮らしが楽しめる様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関に往診して頂いている。家族や利用者の希望のかかりつけ医や専門医への受診への支援を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時には、職員が得た情報や気づきに看護職や訪問看護師に伝え、利用者が適切な受診や看護を受けられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際に、利用者が安心して入院生活が出来る様に、医療機関に情報交換を行い早期に退院できる様に務めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の説明会で重篤化した場合や終末期について説明し、医療機関や関係者と情報交換を行い、利用者や家族の希望や要望に沿える様に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、急変時や事故発生時に、応急処置や初期対応が出来る様に、研修や勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回事業所内での避難訓練を行っている。又同一法人との合同避難訓練にも参加している。避難訓練を行う際にはご家族や地域の方にも協力をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの保護などの研修や勉強会を実施し、利用者の人格を尊重し、否定的な言葉かけをしない様に務めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	苑生活の中で、利用者の思いや希望を聞き取り、利用者の思いや希望に沿った支援が出来る様に務めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者自身のペースに合わせた苑生活が出来様に、希望や要望に沿って支援していく様に務めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みにあった身だしなみやおしゃれができる様に、家族に馴染みの化粧品を家族に購入して頂いたり、好みの洋服を持って来て頂いたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	苑生活の中で、利用者の好みのおかずを聞き取ったり、調理方法を教わったり、お野菜の皮むきなどを手伝って頂いたりしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事の摂取量をチェックし、利用者の健康状態を把握している。利用者の嚥下や咀嚼の状態に合わせて、食事形態を変更している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。夜間は、義歯を洗浄し清潔を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、トイレの声かけや介助を行っている。日中は、パットの使用回数を減らすために、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を活用し、排便のリズムを把握している。便秘にならない様に、牛乳の飲用や乳製品をおやつに使用したりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の清潔保持の為に、出来るだけ毎日入浴して頂く様に務めている。利用者が入浴を嫌がる時は、無理強いしない様に務めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	苑生活の中で、自由に休息や睡眠が出来る様に支援している。夜間、眠れない利用者には、傾聴し、安心して眠れる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬説明表を活用し、利用者の服用している薬の目的や副作用、用法、用量を把握している。服薬の管理は、職員がしており、誤薬しない様に務めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴を聞き取り、これまで培った力を活かした役割や喜びのある苑生活が過ごせるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に沿って戸外へ出ていけるように支援している。家族の協力を得てお墓参りや、外泊ができる様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族、利用者本人の責任のもと、お金を所持し使える様に支援している。自分で管理できない利用者は、必要な物を職員が家族に連絡し、購入してきて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望により、電話をしたり、手紙のやり取りができる様に支援している。家族からの電話にも柔軟に対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員は、利用者が居心地よく過ごせる様に、利用者の座席の配置を考えて、不快や混乱をまねく事がないように工夫している。季節にあった壁面を利用者と一緒に作成し、季節感を味わって頂く様に務めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士テーブルを囲んだり、ご家族や知人の面会があった時には、和室などを利用して頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室は、利用者本人の使いなれたタンスやご家族の写真を飾って頂き、利用者にとって居心地よく過ごす事ができる様に工夫して頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、バリアフリーで対応している。手すりなどを使用し、自立した生活ができる様に支援している。居室が理解できない利用者の居室には、家族の了解を得て、ネームなどを貼って居室が理解できる様に務めている。		